

今号の作業

マフラーを取り付ける



今号では、17号と21号で組み立てた左右のエキゾーストマフラー計4本をメインフレームに取り付けて、エンジンに接続する。マフラーはバイクの外観を大きく左右する重要なパーツなので、取り付けの際にキズを付けないよう注意しよう。

今号のパーツ



- ① ベースフレーム4×1
- ② 制御用基板×1
- ③ ビス(Gタイプ)×5
(※1本は予備)
- ④ メタルクリップC×1
- ⑤ 4×9mmワッシャー付きビス×4

※今号で提供したパーツは、すべて次回以降に使用するので大切に保管しておこう。

用意するもの

- ・多用途接着剤(セメダイン「スーパーX-G」を推奨)
- ・エキゾーストマフラー1番&2番(17号で組み立てたもの)
- ・エキゾーストマフラー3番&4番(21号で組み立てたもの)
- ・エキゾーストパイプジョイント×4(57号で提供したもの)
- ・ビス(Jタイプ)×2(49号で提供したもの)
- ・メインフレーム(58号で組み立てたもの)

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ロングタイプ・ドライバー

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

STEP
1

エキゾーストマフラー1番&2番(左)



エキゾーストマフラー3番&4番(右)

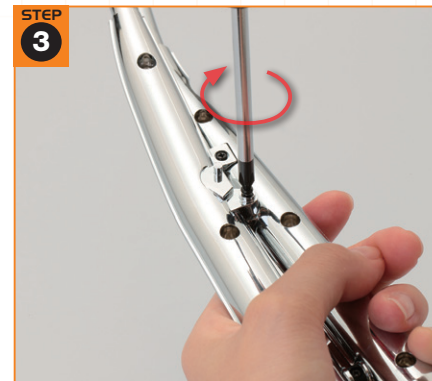
17号と21号で組み立てたエキゾーストマフラーを用意し、パーツの状態を確認しよう。

STEP
2



49号で提供したJタイプのビスを用意し、マフラー裏面の中央部分に設けられたビス穴(写真参照)へセットする。

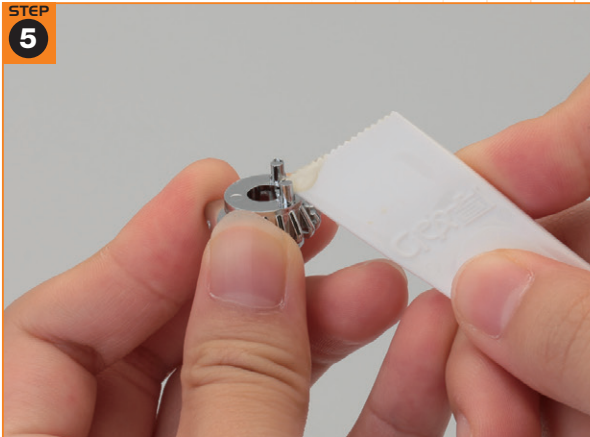
STEP
3



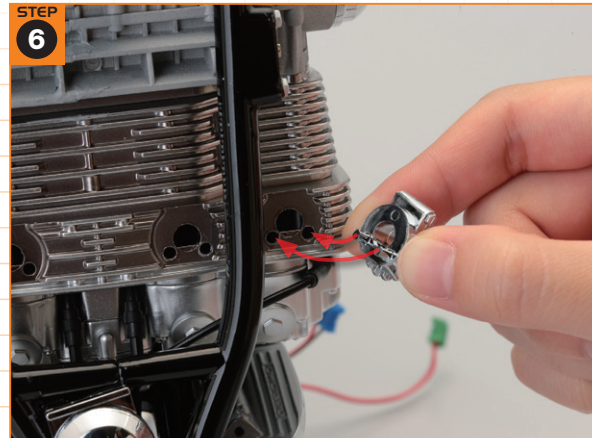
1番のプラスドライバーを使い、Jタイプのビスを全長の3分の2程度までねじ込み、続いて左に回して取り外す。

STEP
4

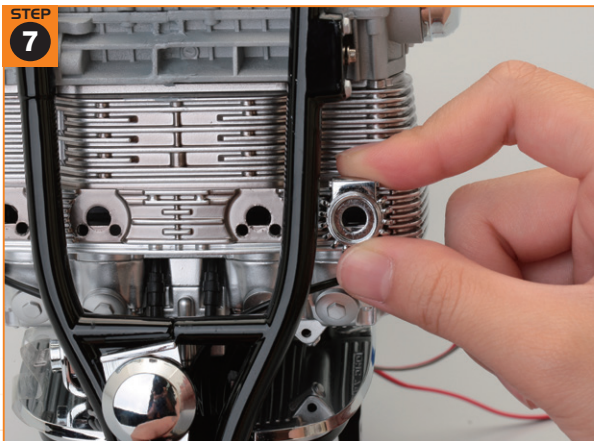
ビス穴にタップを立てた状態。このビス穴が設けられているパーツはABS樹脂製だが、事前にタップを立てておいた方が作業効率が高まる。もう片方のマフラーの同様の個所にも、同じ要領でタップを立てておく。

STEP
5

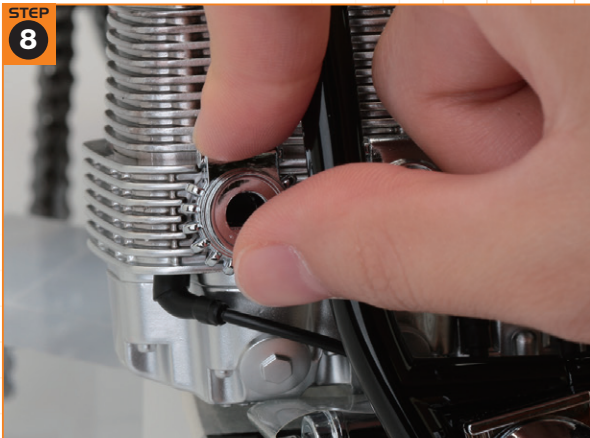
57号で提供したエキゾーストパイプジョイントを用意し、裏面に突き出した2本のピン先端へ、多用途接着剤を少量塗布する。

STEP
6

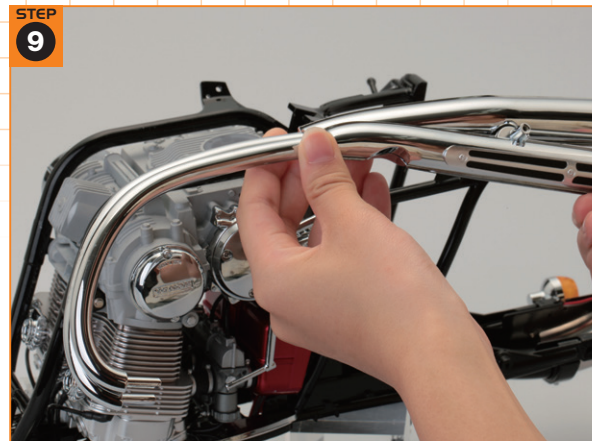
58号で組み立てたメインフレームを倒立させた状態で立て、写真に示したシリンダーヘッドの取り付け穴へ、エキゾーストパイプジョイントをセットする。

STEP
7

エキゾーストパイプジョイントを真っすぐに押し込んで取り付ける。

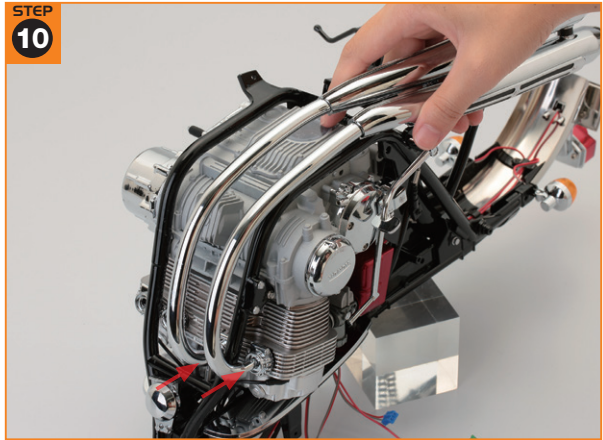
STEP
8

同じ要領で、計4個のエキゾーストパイプジョイントを取り付けておく。

STEP
9

メインフレームの右側面を手前にして置き、21号で組み立てた3番&4番のエキゾーストマフラーの取り付け位置を確認する。

STEP
10



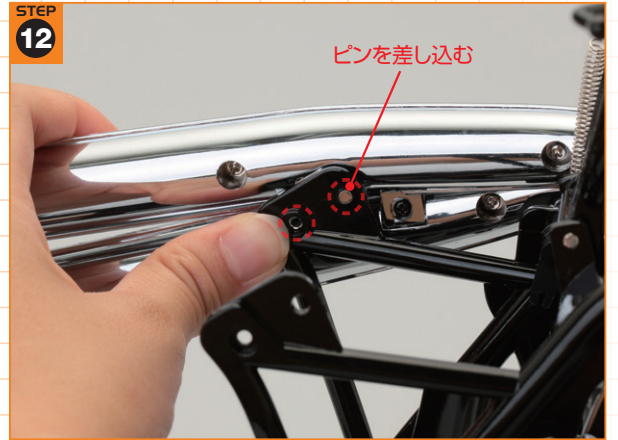
エキゾーストマフラーのパイプを写真のようにメインフレームへセットし、先端部をエキゾーストパイプジョイントの取り付け穴に差し込む。

STEP
11



メインフレームの置き方を反対向きにし、フレームの内側からエキゾーストマフラーの取り付け位置を合わせる。

STEP
12



写真に示した穴にエキゾーストマフラーに設けられているピンを差し込み、もう片方の穴とビス穴を合わせる。

STEP
13



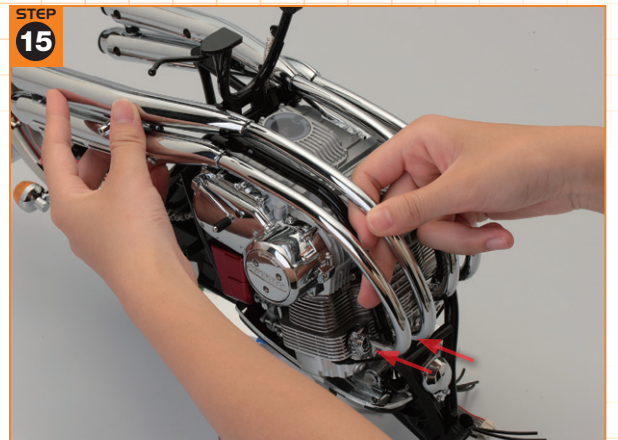
ロングタイプドライバーの先端にJタイプのビスを取り付け、そのまま写真のビス穴にセットする。

STEP
14

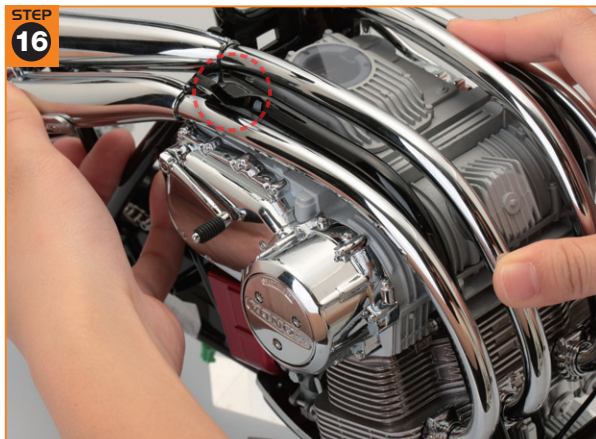


マフラーが外れないように保持しながらドライバーを右に回し、メインフレームに固定する。ドライバーは、写真の位置から差し入れると作業しやすい。

STEP
15



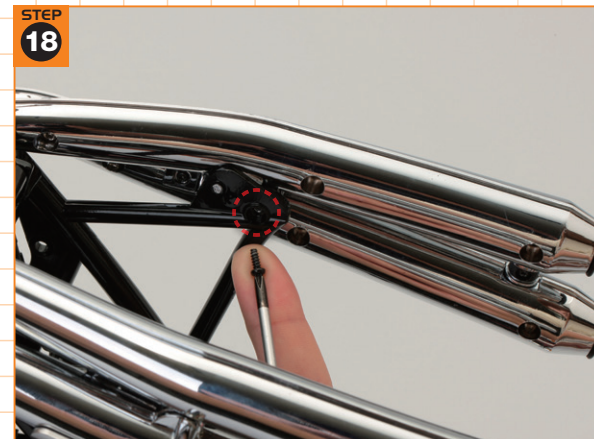
次に、17号で組み立てた1番&2番のエキゾーストマフラーの取り付けを行う。写真のようにメインフレームにセットし、エキゾーストマフラーのパイプ先端部分をジョイントの取り付け穴へ差し込む。



パイプの先端部分をしっかりと奥まで差し込んでおく。その際、写真で示したメインフレームの「サイドスタンド取り付け部」を、2本のエキゾーストパイプの間に挟むようにしておく。



⑫と同じ要領で、マフラーとメインフレームの取り付け部を合わせる。ピンを差し込み、ビス穴をしっかりと合わせておこう。

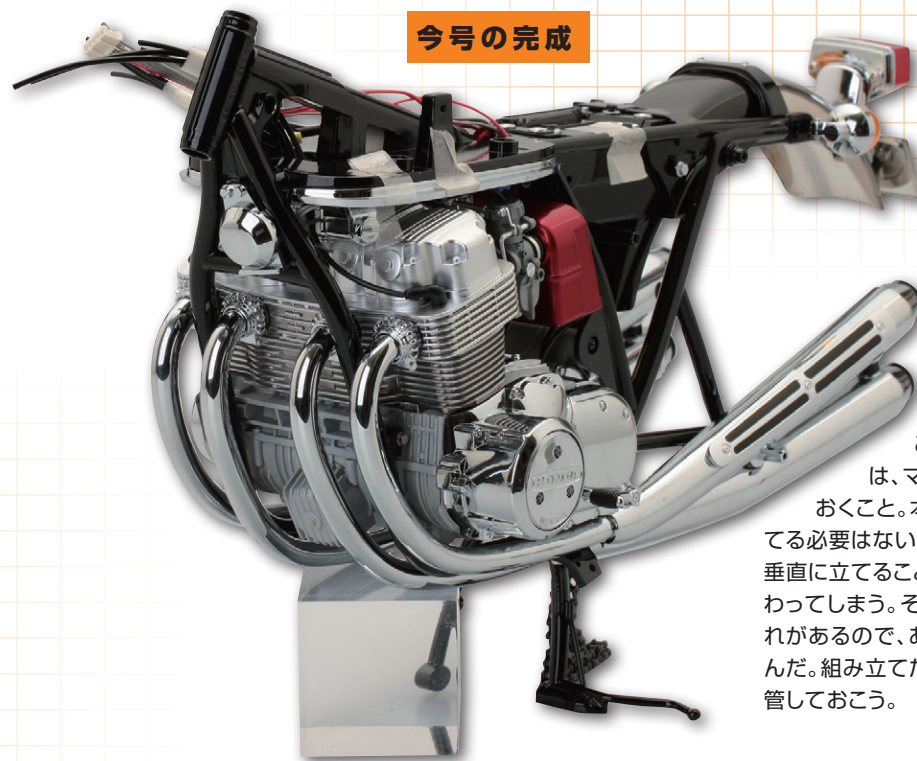


ロングタイプ・ドライバーの先端にJタイプのビスを取り付け、そのまま写真のビス穴にセットする。



マフラーが外れないように保持しながらドライバーを右に回し、メインフレームに固定する。ドライバーを差し入れる位置は、同じ作業の⑫を参考にするとよい。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。ポイントは、マフラー内側のビス穴にタップを立てておくこと。本来ならば、樹脂製パーツはタップを立てる必要はないが、今回はビス穴に対してドライバーを垂直に立てることができないため、ビスに無理な力が加わってしまう。その結果、ビスのアタマ部分を傷める恐れがあるので、あらかじめタップを立てる手順を盛り込んだ。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。